

令和 8 年度 第 2 回社会教育委員会議定例会

【日時】 令和 8 年（2026 年） 8 月 13 日（木） 15 時 00 分～16 時 00 分

【場所】 鎌倉商工会議所 102 会議室

【出席委員】 蛭田議長、久保内委員、石井委員、黒木委員、下山委員、島田委員、中村委員、柳澤委員

【欠席委員】 小島委員、中島委員

【行政職員】 保住教育文化財部長、板場教育文化財部次長兼文化財課担当課長、安富青少年課長、津田中央図書館長、飯田生涯学習課長

【事務局】 小室社会教育主事、岸社会教育指導員

【傍聴者】 2 名

【議事内容】

1 開会

事務局

令和 8 年度第 2 回社会教育委員会議定例会を開催する。はじめに、教育長からご挨拶をさせていただきます。

——教育長挨拶

蛭田議長

委員の出欠状況の報告をお願いします。

事務局

8 名の委員が出席しており、社会教育委員会会議規定第 3 条の規定に定める過半数を超えていることから、会議は成立していることを報告する。また、傍聴者は 2 人である。

蛭田議長

本会議は成立しているとの報告を受けたので、会議を進める。

2 報告事項

ア ユネスコ学習都市について（議案集 3 ページ～）

飯田生涯学習課長

まず、議案集 4 ページ。ユネスコ学習都市について簡単に説明する。ユネスコ学習都市とは、すべての市民が生涯を通じて学び、知識や能力を地域社会の課題解決に生かせる持続可能なまちづくりを实践する都市であり、ユネスコが「学習都市」として認定し、加盟国間で知見を共有し交流するためのネットワークを構築している。現在、91 か国 425 都市が加盟しており、日本国内では 2016 年に岡山県岡山市、2017 年に佐賀県多久市が加盟した。令和 9 年度以降になるが、鎌倉市もこの「ユネスコ学習都市」のネットワークへの加盟を検討している。

鎌倉市には、戦後の「鎌倉アカデミア」に象徴されるように、市民自らが問いを立て、ともに学び合う風土が古くから根付いている。現在においても、環境、歴史、文化、福祉など多岐にわたる領域で、市民団体や個人の手による意欲的な生涯学習・市民活動が市内各所に溢れている。現在は、それらが個別の活

動として独立して存在しているが、国際的な学びの枠組みである「学習都市」という共通の文脈で繋ぐことで、多様な学びの営みを一つのビジョンの下に束ね、本市として、まち全体を学びの場としていけるような基盤を構築したいと考えている。

また、観光の文脈において、本市は、東京から短時間で訪問し巡ることができるという立地的な利点を備えているが、この利点は、短時間で歴史的建造物を巡る「消費型・立ち寄り型」の観光という負の側面として強く表出する場面が少なくない。しかし、本市が本来持っている魅力の本質は、豊富な歴史、豊かな自然が一体となった空間性にある。市民はもちろんのこと、本市を訪れる人々に対しても、単に効率的に観光名所を巡る消費する観光にとどまらず、地域の自然や文化に身を置き、歴史に深く触れることを通じて、訪問した者の内省を促し、自己変容・深い学びにまでつなげていくことが可能だと考えている。こうした考えの下、まち全体を学びの場としていくことの旗印として「学習都市」をうまく活用していきたいと考えている。また、このことは、これまでこの社会教育委員会議においても議論をいただいていた「鎌倉市にふさわしい博物館基本計画」で掲げている「まち全体を博物館」として捉えた鎌倉ミュージアムとも親和的であり、「まち全体が学校であり博物館」という基本理念を掲げることで、「学びの場」としての都市を確立したいと考えている。

次に、議案集5ページ。岡山市の取り組み事例を紹介する。岡山市は国内で初めてユネスコ学習都市に加盟した都市であり、ESD（持続可能な開発のための教育）を中心とした取り組みや生涯学習に関する指標開発が評価され、2017年にユネスコ学習都市賞を受賞している。公民館を中心とした生涯学習活動が特徴的であり、令和8年8月末には担当者で岡山市への視察も予定している。

次に、議案集6ページ。審査基準については、現時点で公表されているものは前回の公募段階のものであるため、申請時に全く同じであるか現時点で定かではないが、前回のものでは、加盟申請にあたっての審査基準は主に5つの観点からなりたっている。一つ目は、学習都市として発展するための中長期計画について、2つ目はESDやウェルビーイングなどの重点分野への具体的な取り組み内容、3つ目は管理体制と予算、4つ目はインクルーシブやジェンダー平等などの包摂性とアクセシビリティの視点、5つ目は学習都市としてのイベントの計画や適切な評価体制についてである。鎌倉市におけるこれらの取り組みをまとめ、申請の準備を行う予定である。スケジュールについてはまだ確定していないが、申請受付は2年に一度とされていることから、おそらく次回の受付は令和9年5～6月頃と考えられるため、この時期での申請に向けて準備を進めていく予定である。

蛭田議長

質問、意見はあるか。

学習都市として認められていくと行政としてのやりやすさやメリットがあるのか。

板場教育文化財部次長兼文化財課担当課長

学習都市として認められることで、市民の意識が変わってくると思われる。また、世界中に学習都市があるため、都市間交流に発展する可能性がある。今後、加盟都市の視察をし、調査していきたい。

久保内委員

この事業を行う場合は、事務局が教育委員会の中に置かれるということか。

板場教育文化財部次長兼文化財課担当課長

基本的には教育委員会の生涯学習課で事務局を担っていくことになる。

久保内委員

機会があれば鎌倉女子大学も何か協力できればと思う。

蛭田議長

鎌倉は非常に有名な場所であることは事実だが、それ以上に、教育の面で広がりが出ていくと思う。そうすると、生涯学習という視点に立って教育が動いているのだという印象がさらに強くなっていくと思う。

柳澤委員

申請の機会は2年に一度、国内から推薦できるのは1回に3都市までとなっているが、毎回どれくらいの申請があつて、どれくらい落とされているのか。

板場教育文化財部次長兼文化財課担当課長

今回の申請でどれくらいの都市が申請するかは未知数だが、今すでに認定されているのは2都市だけというところからも推察できるように、多くの自治体が手を挙げている状況ではない。

また、議長の話のとおり、みなさんに生涯学習について意識してもらうことはもちろん、海外から多くの方が鎌倉を訪れているので、鎌倉がラーニングシティになっているところを観光面でも活かし、消費的な観光ではなく、文化などを深く学んで体験してもらえるような観光の流れをつくることにも寄与すると考えている。

蛭田議長

学習センターの事業のあり方なども含まれてくる。いい機会である。

板場教育文化財部次長兼文化財課担当課長

岡山市は地元の大学と連携して取り組んでいる。鎌倉でも、鎌倉女子大学などとの連携を通じて、学びの拠点を生涯学習施設に限らず様々な場に広げ、市民との協働で様々なプログラムを展開していくような可能性が広くある事業になってくると考えている。

黒木委員

学校はどれくらい関わってくるのか。申請にあたって何か学校が協力できることがあれば早めに知らせていただければと思う。

板場教育文化財部次長兼文化財課担当課長

多久市や岡山市のヒアリングを通じて情報を得たら整理し、必要に応じて事前に協力いただけることがあればお願いします。また、動き出しながら一緒に考えていくことにもなると思うので、引き続き情報共有させていただく。

蛭田議長

機運づくりもやっていくことになるかと思う。

板場教育文化財部次長兼文化財課担当課長

限られた予算の中で効率的に多くの人に周知できるようにしていきたい。

蛭田議長

他に質問、意見はあるか。なければ了承する事とする。

イ 令和8年（2026年）8月から11月までの行事一覧について（議案集8ページ～）

蛭田議長

令和8年8月から11月の行事予定について、各課の一覧があるが、質問、意見はあるか。

下山委員

鎌倉シティパートナーズのイベントは指定管理者が打ち出しているもので、生涯学習推進委員会のイベントは一般市民が考えているということか。

飯田生涯学習課長

生涯学習推進委員会は市民ボランティア団体である。指定管理者制度導入前に市が委託して講座企画などを行っていた。

下山委員

とんぼの会とは別なのか。

飯田生涯学習課長

別である。学習センターでの講座の企画・運営は、指定管理者と推進委員会がお互いに連携して取り組んでいる。

蛭田議長

他に質問、意見はあるか。なければ了承する事とする。

3 その他

ア 子ども向け社会教育プログラム「鎌倉武」のあり方について

事務局

「鎌倉武」は、市内在住・在学の小中学生を対象に実施している社会教育プログラムである。鎌倉市の様々な資源を活用しながら、異年齢交流をとおして楽しく学ぶことを目的に、令和4年から実施している。春は歴史まち歩き、夏は大学生ボランティアや元教員が教える学習教室、秋は歴史・自然探索、冬はコンサートなどを実施してきた。プログラムによっては参加人数がかなり少ないものもあり、内容そのものの魅力を高めたり、周知方法を工夫していくことが必要だと考えている。

より魅力あるプログラム作りのために、ご意見やアイデアがあれば伺いたい。

蛭田議長

質問、意見はあるか。

久保内委員

鎌倉武が始まった頃から、鎌倉女子大学の学生も協力させてもらっている。ボランティア募集の連絡が直前だと学生を集めるのも難しくなるため、日程が決まったら早めに連絡をいただきたい。場合によってはプログラムについて学生の意見を聞くこともできると思う。

石井委員

鎌倉武の活動は、歴史や学習教室など枠が決まっているのか。生け花などの伝統文化体験はいかがか。

事務局

プログラムの内容は固定しているわけではないので、伝統文化などを取り入れていくのも一つの方法であると思う。

石井委員

私自身が生け花を教えており、子どもに対しても教えることができる。伝統文化も取り入れると、もっといろいろなメニューができるのではないかと思います。

下山委員

放課後かまくらっこでは歴史のプログラムでは子どもが全く来ない。じゃあ何で動くかというのと、「大根抜きに行こう」とか。そういう形で文章を変えると来る。「親子で」と言うのと、「じゃあ僕もやろうかな」となる。ただ歴史を学ぼうとか、大人の目線で実施しても子どもは関心を示さないと思う。ただ、歴史は学んでほしい気持ちもあるので、ぜひこの活動の中にそういったものを盛り込んでいただけると良いと思う。

久保内委員

「鎌倉殿の13人」をテーマにやった時に、歴史好きでかなり詳しい小学生が結構集まった。ドラマが関係していたのも要因かもしれないが、ターゲットを絞るのも良いと思う。歴史だけに絞るのではなく、まんべんなく体験できる機会にするなど、方針そのものについても検討してみても良いと思う。

柳澤委員

子どもを持つ親としてはありがたい機会であり、参加させたいという気持ちもある。実際、プリントやお知らせ関係だけでも毎日ものすごい量があるので、情報が埋もれていってしまうのがもったいない。たくさんある中でどれに参加させるのかという精査も難しい。

一旦クラブ会員になると定期的にメール等で情報が届く仕組みがあると良いのではないかな。親も予定や情報を管理しやすく、一回出て楽しければまた安心して他の活動に送り出せる。「クラブ」というのをもっと大々的に、市としてこういうことをしていると伝えてもらえると良い。今は個人でいろいろなイベントなどをやってる人もたくさんいるので、情報がすぐに埋もれてしまう。せっかくの機会なのでたくさんの子どものために学んでもらいたい。

黒木委員

ボランティアの募集のかけ方をお聞きしたい。大学生は大学の先生を通じて紹介していると思うが、退職した先生方にはどのように声をかけているのか。

事務局

毎年同じ先生に継続してお願いしている状況である。学校教育課の学校等運営指導員の方にもご協力いただき、連絡をとっている。

黒木委員

年間を通してこのような活動をされている方もいらっしゃると思うので、協力できる部分があると思う。

島田委員

スポーツ協会は現在30競技団体が参加しているが、うち武道関係の10団体が年に1回武道館に集合して演武を市民に披露する演武会を開催しており、2年前からは演武の披露と合わせて各種目の体験会も実施している。広く子供から大人までを対象にしており、それなりに参加してもらっているが、中々周知が十分にできていないことが課題となっている。こういう取り組みを鎌倉武という活動の括りの中で併せて周知してもらえたら効果があるのかなと思った。

生涯学習課だけで取り組みを広げていくには、予算的にも限られてくると思うが、こうした既存の取り組みと鎌倉武というのを上手くつなげていくことで参加を促すきっかけになるのかなと思った。

また、先ほどの委員の方がおっしゃったように、クラブとしての集約をしていくような仕組みがあれば、そこに情報を流していくこともできるのかなと思った。

飯田生涯学習課長

周知については課題に感じているところがある。運営側の体制の問題もあり、参加者が多くなりすぎても難しい部分がある。先程いただいた「クラブとして組織する」というのも斬新で参考になると感じた。既存の団体との連携についても考えていきたいと思う。

下山委員

学校にはパンフレットを配っているのか。

飯田生涯学習課長

チラシの配布やポスターの掲示をお願いしている。

中村委員

年間スケジュールが決まっていると家庭でも予定を把握しやすい。体験して、何かが身につく内容のものだと良いと思う。例えば、浴衣を着て日本舞踊を体験するイベントなどは毎年人気がある。歴史を勉強するのも良いが、学校でもまち探検をやっていたりするので、地域の方と一緒に何かできるものがあると良いのではないかな。一方で、毎年同じことを重ねていくのも意味があることではあると思う。

久保内委員

まんべんなく対象を広げてというのもひとつだと思うが、例えば通級の子どもなどを対象に絞って、その支援を行う団体と連携しながら講座を実施するのも良いと思う。

蛭田議長

他に質問、意見はあるか。なければ意見交換は終了とする。このあとは委員向けの事務連絡となるため、傍聴者は退室していただく。

イ 令和 8 年度神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会の開催について

事務局

9 月 11 日（金）13 時 20 分から、善行の県立総合教育センターにて、神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会が開催される。今年のテーマは、「地域の教育力を高める社会教育委員のあり方～横須賀市・鎌倉市・逗子市の事例から～」となっており、研修講師は久保内先生がつとめる。この 3 市は、久保内先生が社会教育委員として関わっている市である。鎌倉市からは、下山委員が鎌倉市の社会教育委員の取り組みを事例発表する。様々な所属の方に集まっていただき社会教育に関する議論を深めていることや、令和 7 年度に教育委員との対話を通じて教育振興基本計画を策定したことなどを中心にお話いただく予定である。後半のグループ協議では、他市の社会教育委員の方々ともお話できるため、都合がつく方はぜひ参加いただきたい。

ウ 任期の終了及び次期の委嘱について

事務局

10 月 31 日で現在の任期が終了となり、次回 11 月の会議からは次の任期が新たに始まる予定である。9 月以降、それぞれの所属に委嘱依頼の調整で連絡をさせていただく。

蛭田議長

意見・質問などはあるか。なければ以上で第 2 回社会教育会議定例会を終了する。